

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(11月号)

～9月の輸出は下落幅縮小も、7カ月連続の前年割れ

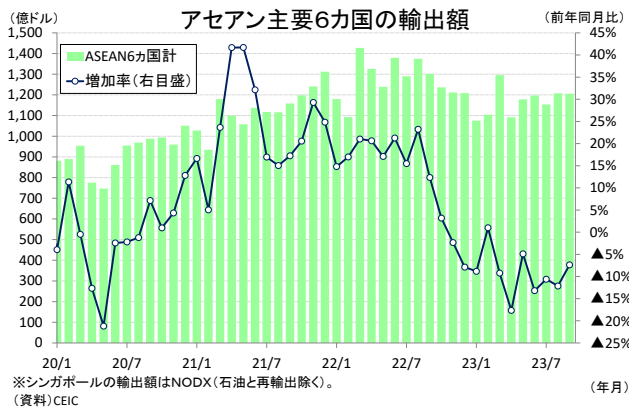
経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

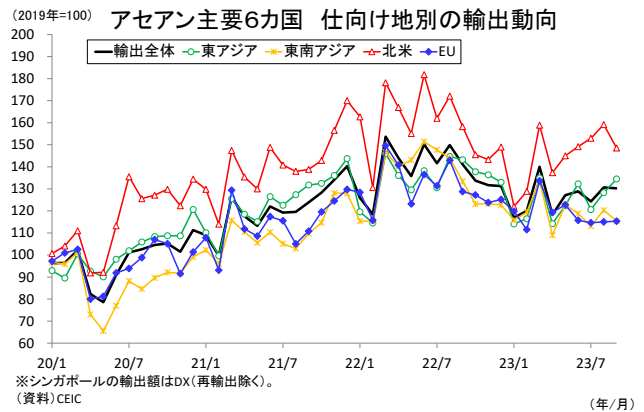
2023年9月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て、通関ベース）は前年同月比7.4%減（前月：同12.1%減）と減少幅が縮小したものの、7カ月連続の前年割れとなった（図表1）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍からの経済活動の回復や商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は欧米を中心とした外部環境の悪化や資源価格の軟化により増勢が鈍化し、昨年11月以降は前年比で減少傾向にある。輸出額は今年に入って底入れしており、年末にかけて前年同月を上回るとみられるが、中国向け輸出の回復が遅れている上、金融引き締めの影響による欧米経済の需要鈍化が見込まれるため、輸出の持ち直しの動きは緩やかなものとなりそうだ。

ASEAN6カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、東アジア向けが同6.1%減（前月：同11.4%減）、北米向けが同6.1%減（前月：同7.5%減）、EU向けが同10.4%減（前月：同19.5%減）、東南アジア向けが同13.5%減（前月：同16.5%減）となり、それぞれマイナス幅が縮小したものの、減少傾向が続いた（図表2）。

（図表1）



（図表2）

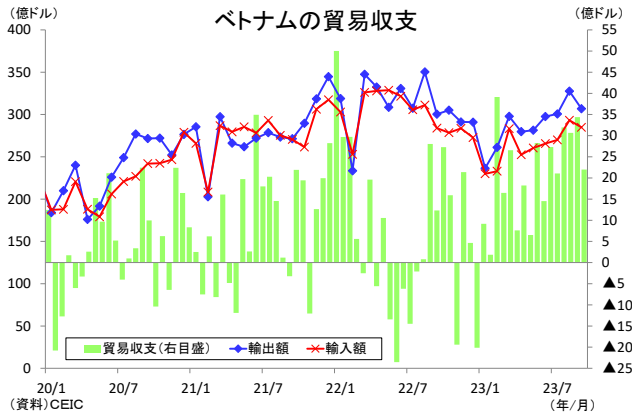


ベトナムの9月の輸出額（通関ベース、確定値）は前年同月比2.1%増（前月：同6.5%減）の306億ドルとなり7カ月ぶりに前年を上回った（図表3）。輸出の基調は昨年後半から海外需要の鈍化や一次産品価格の下落により減少傾向にあるが、足元では電子製品が増加に転じるなど持ち直しの動きがみられる。また輸入額も前年同月比0.3%増（前月：同5.8%減）の284億ドルとなり11カ月ぶりに増加した。結果として貿易収支は+20.0億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から12.4億ドル縮小した。

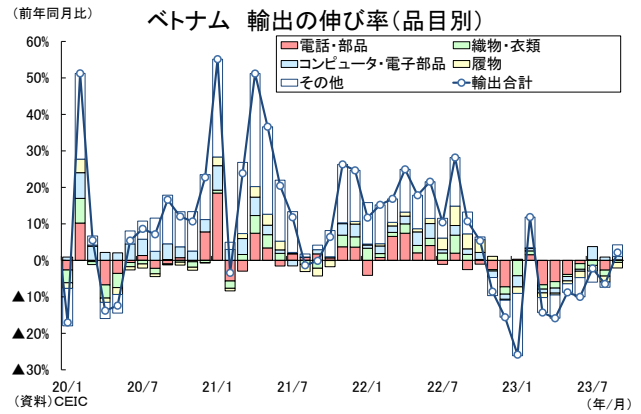
輸出を品目別にみると、輸出全体の約2割を占める電話機・同部品が前年同月比0.8%増（前月：同15.5%減）となり2ヵ月ぶりに増加すると共に、コンピュータ、電子製品・同部品が同5.5%増（前月：同6.4%増）となり3ヵ月連続で増加した（図表4）。アパレル関連については履物が同25.5%減（前月：同25.1%減）、織物・衣類が同6.2%減（前月：同14.1%減）と低迷した。農林水産物を見ると、水産物（同5.0%減）と天然ゴム（同10.0%減）、コーヒー（同28.2%減）が減少した一方、野菜（同167.1%増）やコメ（同37.8%増）、カシューナッツ（同31.8%増）が増加するなど、品目によってばらつきが見られた。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同1.2%減（前月：同9.9%減）とマイナス幅が縮小すると共に、地場企業は同12.9%増（前月：同3.7%増）と2ヵ月連続で増加した。

（図表3）



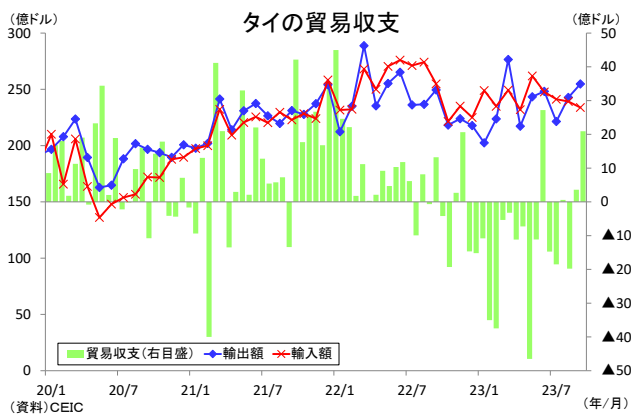
（図表4）



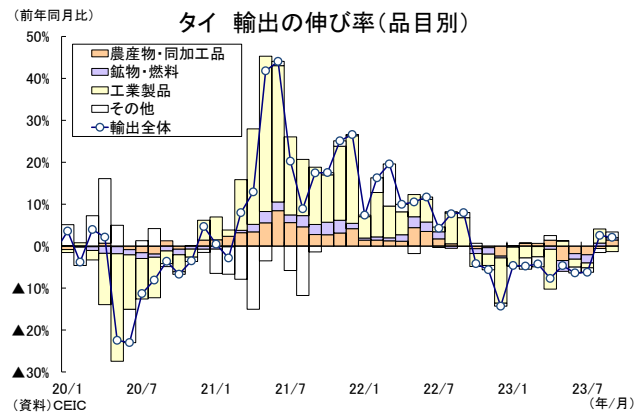
タイの9月の輸出額（通関ベース）は前年同月比2.1%増（前月：同2.6%増）の254億ドルとなり、2ヵ月連続で増加した（図表5）。輸出の基調は昨年後半から海外需要の鈍化や一次産品価格の下落により減少傾向で推移しているが、足元では中国向け輸出が回復して持ち直しの動きがみられる。一方、輸入額は前年同月比8.3%減（前月：同12.8%減）の233ドルとなり、7ヵ月連続で減少した。結果として、貿易収支が+20.9億ドルとなり、前月から17.3億ドルから黒字が拡大した。

輸出を品目別にみると、全体の約7割を占める工業製品が同1.7%減（前月：同4.6%増）と2ヵ月ぶりに減少した（図表6）。製造品の内訳を見ると、自動車・部品（同0.8%増）と機械・装置（同0.7%増）は小幅に増加したものの、石油化学製品（同10.8%減）や電子製品（同10.2%減）、金属・鉄鋼（同3.8%減）、家電製品（同3.7%減）はそれぞれ減少した。また鉱業・燃料は同14.6%増（前月：同19.3%増）となり、石油製品（同25.6%増）を中心に2ヵ月連続で増加した。このほ

（図表5）



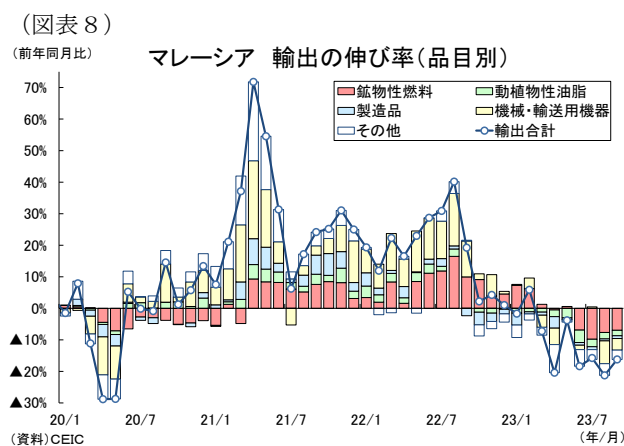
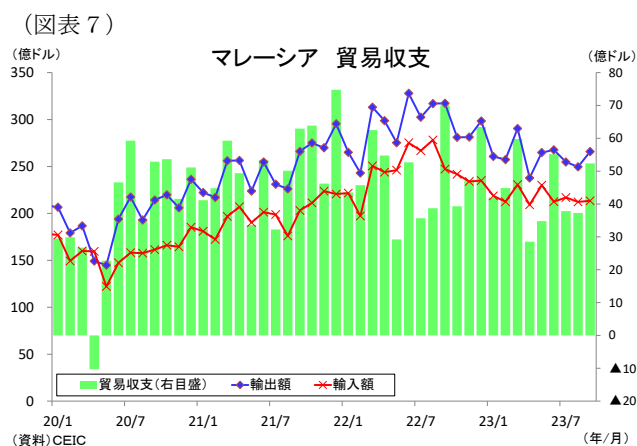
（図表6）



か、農産物・同加工品は同7.7%増（前月：同2.6%減）と5ヵ月ぶりに増加した。農産物・同加工品の内訳をみると、コメ（同51.4%増）とドリアン（同1103%増）は増加したが、天然ゴム（同30.3%減）やゴム製品（同26.2%減）、加工食品（同1.7%減）は減少するなど、品目によってばらつきが見られた。

マレーシアの9月の輸出額（通関ベース、ドル換算）の伸び率は前年同月比16.2%減（前月：同21.3%減）の265億ドルと低迷、7ヵ月連続の前年割れとなった（図表7）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍で停滞した経済活動の再開や電気電子製品、石油ガス製品の需要拡大を追い風に増加してきたが、その後は世界的な需要減退と商品価格の下落により伸び悩み、年明けから減少傾向が続いている。また輸入額も前年同月比13.7%減（前月：同23.7%減）の213億ドルと減少した。結果として、貿易収支が+52.4億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から15.1億ドル拡大した。

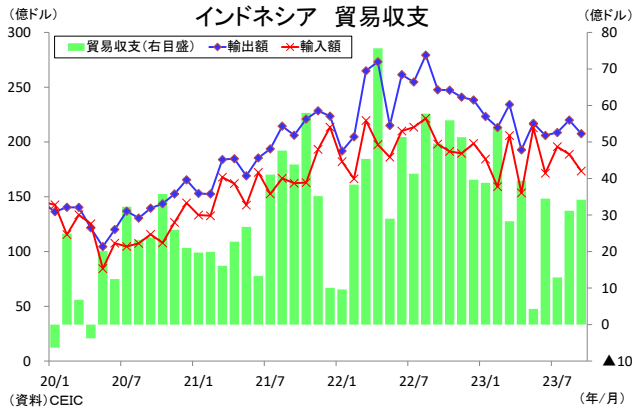
輸出を品目別にみると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同8.2%減（前月：同17.5%減）となり、主力の電気・電子製品（同8.1%減）を中心に2ヵ月連続で減少した（図表8）。また鉱物性燃料は同36.9%減（前月：同36.1%減）となり大幅な減少が続いた。鉱物性燃料の内訳をみると、石油製品（同39.6%減）と天然ガス（同39.6%減）、原油（同16.4%減）が揃って減少した。このほか、コロナ特需が終息したゴム手袋（同23.5%減）や動植物性油脂（同36.9%減）、化学製品（同17.8%減）なども低迷した。



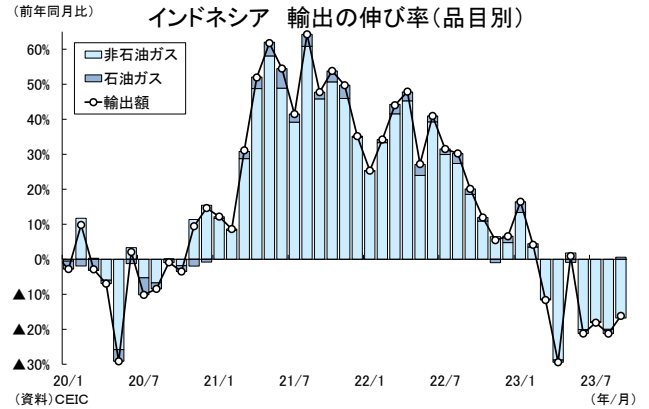
インドネシアの9月の輸出額（通関ベース）は前年同月比16.2%減（前月：同21.2%減）の207億ドルとなり、4ヵ月連続で減少した（図表9）。輸出は昨年半ばまでコロナ禍からの経済活動の再開や商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は海外経済の減速や石炭およびパーム油などの主要商品価格の下落により鈍化し、今年3月から減少傾向にある。また輸入額も前年同月比12.5%減（前月：同14.8%減）の173億ドルとなり、4ヵ月連続で減少した。結果として、貿易収支が+34.2億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から3.0億ドル拡大した。

輸出を品目別にみると、全体の9割を占める非石油ガス輸出が同17.7%減（前月：同21.3%減）、石油ガス輸出が同11.6%増（前月：同20.7%減）となり、それぞれ低迷した（図表10）。非石油ガス輸出では鉱産物（同32.3%減）や動植物性油脂（同23.5%減）、プラスチック・ゴム製品（同15.6%減）、機械（同11.9%減）、電気機械（同13.7%減）、自動車同部品（同7.4%減）、織物類（同9.7%減）など減少した品目が多かった。一方、鉄・鉄鋼製品（同8.6%増）や真珠・貴石・半貴石（同36.3%増）については増加した。

(図表 9)



(図表 10)

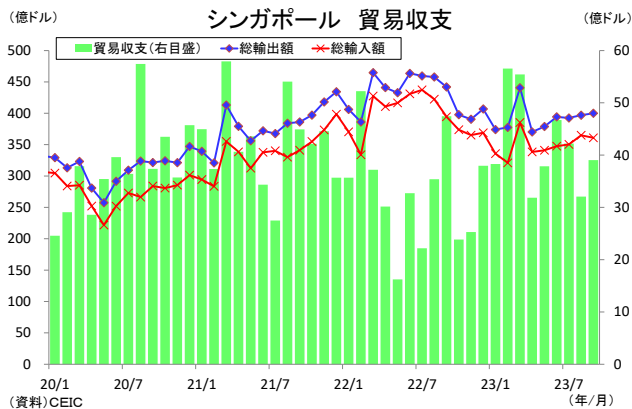


シンガポールの9月の輸出額(石油と再輸出除く、通関ベース、ドル換算)は前年同月比10.0%減(前月:同20.6%減)の103億ドルとなり、マイナス幅が縮小したものの、13カ月連続の前年割れとなった(図表11)。輸出の基調は昨年半ばまで世界的な電子製品の需要拡大や石油製品の価格上昇により増加傾向が続いたが、その後は電子製品、非電子製品が振るわず減少している。

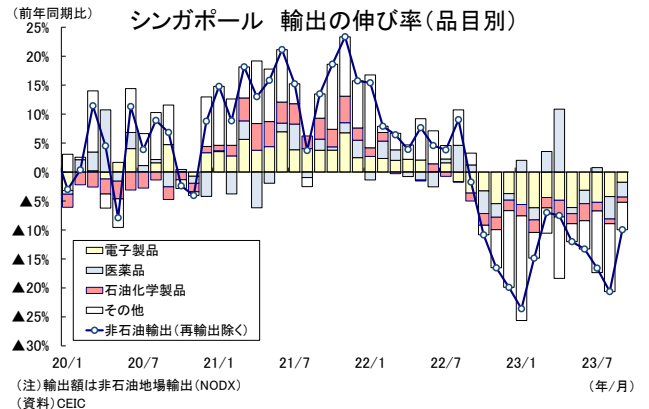
総輸出額は同9.5%減(前月:同13.3%減)の400億ドル、総輸入額が8.5%減(前月:同13.6%減)の361億ドルとなり、それぞれ減少した。結果として、貿易収支は+39.0億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から7.0億ドル拡大した。

輸出(石油と再輸出除く)を品目別にみると、まず全体の約2割を占める電子製品は同8.3%減(前月:同19.2%減)と14カ月連続の減少となったものの、マイナス幅が縮小した(図表12)。電子製品の内訳を見ると、PC(同30.7%減)は大幅な減少が続いた一方、主力のIC(同13.1%減)とディスクメディア(同2.6%減)はマイナス幅が縮小した。また全体の約3割を占める化学品も同16.5%減(前月:同20.4%減)となり5カ月連続で減少した。化学品の内訳を見ると、石油化学製品(同11.7%減)と医薬品(同28.7%減)がそれぞれ低迷した。

(図表 11)



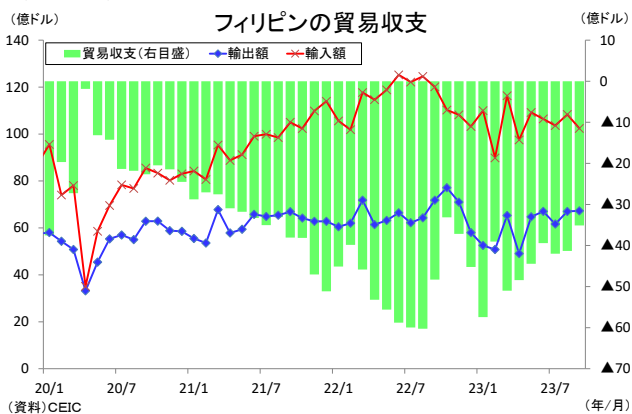
(図表 12)



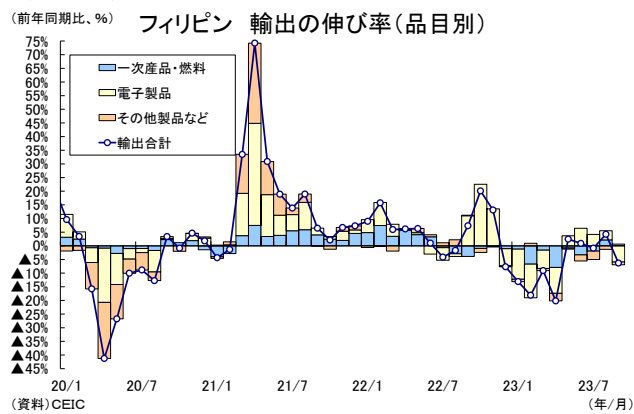
フィリピンの9月の輸出額(通関ベース)は前年同月比6.3%減(前月:同4.2%増)の67億ドルとなり2カ月ぶりに減少した(図表13)。輸出の基調は今年5月以降、電子製品の需要が持ち直して増加に転じつつあるが、9月は前年同月の輸出が好調だったため再び減少した。また輸入額は前年同月比14.7%減(前月:同13.0%減)の102億ドルとなり11カ月連続の前年割れとなった。結果として、貿易収支は▲35.1億ドルの赤字となり、赤字幅が前月から6.2億ドル縮小した。

輸出シェア上位10品目をみると、まず輸出全体の6割近くを占める電子製品が同9.4%減（前月：同5.9%増）となり、5ヵ月ぶりに減少した（図表14）。電気製品の内訳を見ると、電子データ処理機（同27.2%減）が低迷したほか、主力の半導体デバイス（同7.7%減）が再び減少した。その他9品目については金（同72.6%増）と化学品（同66.4%増）、機械・輸送用機器（同17.2%増）、精錬銅（同14.1%増）が増加したものの、その他製造品（同15.1%減）とその他鉱業品（同11.4%減）、イグニッションワイヤーセット（同5.7%減）、電子機器・部品（同4.9%減）、金属部品（同3.8%減）が減少するなど、減少した品目が多かった。

（図表 13）



（図表 14）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。